

平成 29 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■ 共同研究 3	公益目的事業 11
主査名	堀田一吉 慶應義塾大学商学部教授	
研究テーマ	保険情報のデジタル化と自動車保険	
研究の目的： 昨年に引き続き、ビッグデータ技術の進展が保険業に及ぼす影響について、自動車保険を中心に、現在の動向を中心に考察を進めている。とくに本年度は、その延長上として、さらにビッグデータならびに人工知能（AI）の時代を迎えて、自動車保険分野における保険業界の対応と可能性を議論する。IAIS(国際保険監督者機構)は、2017 年 2 月に”Fintech Developments in the Insurance Industry”と題するレポートを発表し、保険業界への影響の様々な角度から考察しているが、まさに、保険業界を挙げて、急速に関心の高まりを見せているところである。本研究では、対象を主に自動車保険に焦点を当てながら、保険データのデジタル化がもたらす、保険経営への影響に加えて、社会経済的影響、さらには、法的な環境整備についても、総合的な考察を行う。		
研究の経過（4 月～3 月）： 本年度は、ビッグデータ・AI 技術の応用分野としてすでに先行的に導入が進められている自動運転車を中心に研究を進めてきた。研究会でも、自動運転問題を専門的に研究している講師を招いて全体討議を進めてきた。我々の問題意識は、あくまでもビッグデータ・AI 技術と保険業あるいは自動車保険の関係性、将来展望にあり、自動運転は、その一側面を示しているにすぎない。参加者同士の意見交換を通じて、次第に、問題の焦点が見えてきたところであるが、いうまでもなく、ビッグデータ・AI 技術の進展は、保険システムに限らず、社会システム全体に大きな影響を及ぼすものであり、他の分野の動向にも注意を払う必要があることも痛感しているところである。保険業界では、様々な分野で、ビッグデータを保険ビジネスに応用するにあたっては、デジタル化がポイントとなる。研究会を通じて、ビッグデータ・AI 時代の到来が、自動車保険システムにとって大きなインパクトになることを確認しつつ、必然的に自動車保険の将来展望についても議論を積み重ねることができた。		
研究の成果（自己評価含む）： ビッグデータ・AI 技術が保険業界にもたらした影響は、究極的には、保険事業全体のデジタル化にある。従来の保険業界は、もっぱら静的リスクデータを処理してきたが、ビッグデータ・AI 技術の発展により、動的リスクデータが活用されようとしている。その結果、保険設計の考え方も、集団的リスク処理から個別的风险処理への移行が可能となりつつある。この動きは、単なる現象面の変化にとどまらず、保険理論におけるパラダイムの大転換とみることができ、保険システムの構造や理念を大きく変えてしまう可能性もはらんでいる。本研究を通して、こうした保険をめぐる本質的变化を確認することができ、この問題のさらなる考究が重要であるという認識を高めることができた。		
今後の課題： 保険事業においてビッグデータ・AI 技術がもたらしたデジタル化は、既に様々な形で具体的現象に表れ始めている。本年度の議論を踏まえて、次年度は、その中からシェアリングエコノミーと保険事業をテーマに、保険経済的ならびに経営戦略的意義を考究していきたい。		